

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：19251004
研究課題名（和文）
アジアにおける希少生態資源の攪乱動態と伝統的技術保全へのエコポリティクス
研究課題名（英文）
The dynamics of minor eco-resources trade in Asia and the eco-politics of conserving traditional techniques
研究代表者
山田 勇（YAMADA ISAMU）
京都大学・東南アジア研究所・名誉教授
研究者番号：80093334

研究分野：人文学 A

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：生態資源，グローバル・コモンズ，ワシントン条約，伝統的順応管理，エコポリティクス，生態史，越境

1. 研究計画の概要

希少生態資源のみならず、野生生物（wildlife）の保全に関しては、これまでも利用か保護かをめぐり、さまざまなディベートがかわされてきた。しかし、昨今では、動物福祉や動物権思想にもとづく動物保護の立場からの発言が政治力を増しており、科学的見地にもとづく資源管理をも否定しかねない傾向にある。こうしたイデオロギーに依拠する保護思想の拡大は、乱獲と同様に地域社会が涵養してきた「伝統」的保全知識と技術の喪失をまねく危険性をはらんでいる。本研究は、生物多様性と文化多様性の両立を視野に、生態資源の管理をめぐる環境政治（エコポリティクス）の動態を把握するとともに、グローバル化時代における地域在来の環境利用技術と知識の保全をめざすものである。

2. 研究の進捗状況

研究代表者の山田をはじめ連携研究者7名は、東南アジアを中心として、地域間比較の視点から西アジアや南太平洋といった隣接地域をもカバーしながら、フィールドワークを展開し、それぞれ成果を公刊してきた（後述）。

本研究は、エコポリティクスの動態をつかむにあたり、生態資源の生産から消費にいたるモノ・情報・資本の連鎖に着目した。本研究であつかう生態資源は多岐に富むが、各種の樹脂やトウに代表される非木材林産物、ナ

マコ類やサメ類などの特殊海産物、ハタ類・マグロ類といった近年に着目される活魚・鮮魚などの生産空間、乳利用の伝統的技術、ツーリズムの場となる森林やサンゴ礁といった生態空間の利用を主要な研究対象とする。

これら海から草原、森林にいたる生態環境の利用実態を把握することを目的としたフィールドワークを展開する一方で、調査成果の交換を目的とした研究会を開催し、成果の共有をはかってきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
(理由)

生態資源の生産現場や消費現場のフィールドワークにとどまらず、研究主題でもあるエコポリティクスが生起し、生産と消費に多大なる影響力を行使しうる国際条約のCITES（ワシントン条約）やFAO（国連食糧農業機関）、SEAFDEC（東南アジア漁業開発センター）、ITTO（国際熱帯木材機関）といったIGO（政府間機関）を舞台とした参与観察を積極的に展開できている。また、TRAFFICをはじめとした国際環境NGOとも研究交流をかさねており、研究の幅を広げてきた。同様に、学界での活動にとどまらず、CBD CoP10開催をにらんだ啓蒙活動にも、研究代表者をはじめ、各連携研究者も尽力している点で、研究成果の社会還元積極的にある。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度として、それぞれがおこなった個別調査であきらかとなった問題群を本研究の標題にかかげた「エコポリティクス」という視点で束ねなおす作業が必要となる。同時に、生態資源管理と伝統的技術保全の統合モデルの提示をめざしている。当初、目的としていた連携研究者による単著・編著も順調に刊行されはじめているし（後述）、連携研究者の平田昌弘が平成 20 年度日本沙漠学会論文賞を受賞するなど、本研究の成果は順調といえる。本研究のまとめも、研究代表者による編著として公刊する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

- ① Suzuki, R., S. Takeda and Hla Maung Thein, “Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar,” *Tropical agriculture and development*, 査読あり, 53(3), 2009, pp. 82-89.
- ② Akamine, J. “Challenging ‘boom and bust’ market pressures: Development of self-managed sea cucumber conservation in Rishiri Island, Hokkaido, Japan”, *Biosphere conservation*, 査読あり, 9(2), 2009, pp. 1-12.

〔学会発表〕（計 20 件）

- ① Akamine, J., “The politics of sea cucumber foodways heritage: Fishery network and marine resources conservation in Japan”, Sharing cultures 2009: International conference on intangible heritage, 30 May 2009, Pico Island, Azores, Portugal.
- ② Ichiakwa, M., “Changes of land and forest uses by indigenous people in Sarawak”, Sarawak biological resources forum 2010: Highlighting Sarawak as a global mega-biodiversity, 30 March 2010, Kuching, Sarawak, Malaysia.

〔図書〕（計 15 件）

- ① 赤嶺淳, 新泉社, 『ナマコを歩くー現場から考える生物多様性と文化多様性』, 2010, 356pp。
- ② 長津一史・加藤剛（編）, 風響社, 『開発の社会史ー東南アジアにみるジェンダー・マイノリティ・境域の動態』, 2010, 544pp。
- ③ 市川昌広・生方史数・内藤大輔（編）, 人文書院, 『熱帯アジアの人々と森林管理制度ー現場からのガバナンス論』, 2010,